

教育課程編成委員会

令和5年度第2回委員会 議事録

1. 日時及び場所

- 日時：令和6年2月17日(土)15：00～17：00
- 場所：修成建設専門学校129大教室

2. 出席者

- 建築Aグループ
倉方 俊輔・田中 義久・井上 久実・小池 祐也・作本 博昭・内倉 悠・山下 裕貴・
角野 峰生・鍵谷 啓太・釜友 知與子
- 建築Bグループ
西濱 浩次・辻 裕樹・佐藤 榮一（欠席）・中村裕輔・坂入 喜代枝・今西 良介・
見邨 佳朗・稲原 泰裕・山本 順也・廣辻 雅之
- 土木・造園グループ
小松原 学・奥村 安史・石川 正行（代理：寺面 正人）・土橋 傑・槇村 吉高・當内 匡・
上田 正敏・川端 晴江・堤下 隆司・谷川 博康・野瀬 孝男・上杉 敬史

3. 配布資料

- 1-1：令和5年度第2回委員会 議事次第
- 1-2：出欠予定一覧表
- 1-3：卒業展 2024 ご案内
- 1-4：建設業界オンライン合同企業説明会 2024
- 1-5：RECRUIT INFORMATION 2024
- 1-6：その他各種案内

4. 議事次第

1. 開会挨拶

堤下委員(校長)より開会の挨拶、ならびに次第に基づき委員会議事進行の説明があった。

2. 話題提供

1) 修成教育研究所の成果報告

見邨委員(副校長・教育研究所所長)より、令和5年度の教育成果の振り返りについての以下の報告があった。

- ・ 教育研究所の説明（目的と概要）
- ・ 本科課程での各資格への取組と合格者数の報告
- ・ 専科課程での一級・二級建築士合格者数と合格率、学校種別の全国順位
- ・ 授業展開での学内外の取組みや、産官学連携など
- ・ 留学生教育について、日本留学生アワード受賞の報告
- ・ 衣食住専門学校コンソーシアムOSAKAについての概要説明
- ・ 大学併修プログラムについて
- ・ 各種の資格講座、スキルアップセミナーについて

3. 堤下委員より議事内容の説明があり、3グループに分かれてグループでの討議を行った。

1) グループ討議（建築2グループ、土木・ガーデン1グループに分かれて）

討議の議題は以下のとおり

- ・ 育資格取得とリカレント教育・リスクリングについて
- ・ 建設分野におけるイノベーションについて
- ・ 専門学校の「人材育成」と「専門教育」について

建築A グループ討議内容

i. 資格取得とリカレント教育・リスキリングについて

- 報告を受けた修成の建築士合格状況について、驚異的な数字であり、他校と合同での分析や、教員の密なコーチングの成果とわかった。
- 資格・実務・学びのバランスが大事だと感じた。

ii. 建設分野におけるイノベーションについて

- 専門学校はもっと実務教育にも注力すべき、観念的な建築教育は大学で教授できる。
- 演習教育のなかで、モックアップを作り、手を動かしてものづくりをする経験が重要である。
- SDGsはボランティアではないことが重要なポイント。
- ビジネスを作る、新しいもの、今あるものも無駄にしない使いかた。ものづくりとSDGsはつながっている。

iii. 専門学校の「人材育成」と「専門教育」について

- 専門学校の方が本来は多様性があるべきではないか。
- 建築へのモチベーションをどう高めていくかを考えるなかで、衣食住専門学校コンソーシアム等の機会を通じて、異業種とまじりあう体験を得ることは重要である。
- 建築の世界ではもはやBIMやCADは必須となっていく。情報・ICT教育を各学科の建築教育とどのように結びつけていくか。建築情報学会での議論の様に、各領域に横断を挿していくのが情報・ICT教育である。

建築B グループ討議内容

i. 資格取得について（リカレント教育、リスキング）について

- 勤務体制や介護分野からの建築との結び付けを重視した視線など他分野からの人材教育が求められている。
- 建築系学生の採用が少なく、文系卒業生を採用すると、知識指導や人材確保が必要となる。また、文系の学生を、管理部門に配置していくためにはリカレント教育が必要となっていく。
- 自分の存在意義を示すために資格をとるというよりこれが必要だという方向性をつけ興味があった時にその資格をとるという風に個人のモチベーションや必要に応じた

資格取得が必要。業界変更を伴ったケースは仕事への意識や資格取得等にも影響する。

- 構造的な事も必要だが、法規的なことを知る必要がある。さらにデザインについても勉強をしていかないといけないと思われる。
- 会社になじめない学生が増え、有資格者も減少傾向にある。

ii. 建設分野におけるイノベーションについて

- 新築時代からイノベーションへの対応、マンション管理を国が重視し、行政はストック建築の対応も重要視しており、ストックをどう活用するのかの考え方が必要。
- 建築業界の人は調整能力が必要と思われるので、そういった部分を伸ばす教育も必要。
- 自分の常識にとらわれず。建築だけでは無く、異分野も含めた広角的視野が必要。

iii. 専門学校の「人材育成」と「専門教育」について

- 知識だけではなく思考も重要で、考えるクセをつけ、どう考えるか、現物、本物、現場など実際に体験でき、学生が建築の面白さや、建築に興味を持つ機会を提供し、根拠のあるアイデアが発想・提案できる知恵の出せる人材育成が必要。
- 繊細な学生が多く、建築業界への興味がなく就職は建築分野等へ進路は決めている。思考能力が乏しく、建築士の学科は出来るが製図が難しく応用力必要。
- スペシャリストをコンダクト・マネジメントする人材育成が必要
- 発想の転換は、雑談の中にヒントがある場合もある、学生との寄り添いが重要で教育者が学生といろいろな事を話してほしい。

土木・造園グループ討議内容

i. 資格取得について（リカレント教育、リスキング）について

- 施工管理において、施工管理技術検定の2級はあくまでも通過点で、目指すは1級。
- 自分自身の為に資格取得を促す。若い人が資格取得しようと思えるよう指導する。
- 社内講習を1ヶ月から1ヶ月半程度、週1回1日実施。
- 社内での教育が難しいので、スキルアップ講習を実施していただくとありがたい。
- コンサルタント業務では技術士等を目標とし、施工管理は有資格者に来てもらっていることもある。
- フルハーネス型墜落制止用機具特別教育が必要な場合もある。

ii. 建設分野におけるイノベーションについて

- 理工系の卒業生の採用が難しく、文系の卒業生を採用し、入職後再教育している。
- 文系から入職された場合、志が高くないと難しいが、今後も増加すると思われる。
- 海外からの就労者が増加すると思われる。

iii. 専門学校の「人材育成」と「専門教育」について

- 卒業までに必要な施工管理技術検定や技能士、フルハーネス型墜落制止用機具特別教育などの必要な資格を取得し、卒業後の実務経験でさらに上の資格に挑戦してもらいたい。
- 学校を卒業しても企業で学ぶことが必要。
- チームで活動するため、気持ちの良いチームづくりが必要。
- 伝える手段として手描きのスケッチが有効で、庭などを設計するためには感性やスケッチ力が必要と思われる。

その他連絡事項

グループ討議終了後、山下委員（理事長）より挨拶があり。最後に堤下委員より閉会の挨拶があった。

次回委員会実施日

日時：令和6年10月予定

場所：修成建設専門学校

内容：令和5年度各学科課程修了報告。

以上

（文責：野瀬 孝男・鍵谷 啓太）